遠野駅舎の未来を考える会会報 №09(H28.2.12発行)

どごさ行ぐ？ まっちゃ行ぐ！ MACHI UP PRESS↑

まっちゃPRESS

まちなかを考える まちなかリポート machicafe

空き店舗が目立つようになってきた遠野のまちなか。そんなまちなかで頑張っている人たちがいる。今回インタビューしたのは、都心で約20年アパレル関係のお仕事をされ、遠野に戻ってきた松田成人さん。その目に映る地元遠野市のまちなかについて聞いた。

―― 早速ですが、松田さんが遠野にUターンされた理由を聞かせていただけますか？

松田さん　戻ってくるきっかけは東日本大震災が大きかったと思うけど、もともと遠野に戻ってくるつもりで上京したからね。高校を卒業して上京後、ファッション業界で働いて、経験を積んで、地元に戻ってくるというのが自分のビジョンだったから。今はインターネットがあるから、どこでも働けて生活できる環境が整っているというのも理由かな。

―― 上京後、戻ってくるところまですでに構想をお持ちだったんですね。都市と農村の両方の生活を経験されて感じる遠野のまちなかの魅力というのはありますか？

松田さん　魅力？　・・・無い（笑）。ほんと遠野のまちなか空き店舗増えたね。内装にこだわりがある店が少ないということと自分たちの世代（30代～40代）がやっている店が少ないことが残念かな。それでも遠野のいいところはどこかと言われれば、豊かな自然と健康的な美味しいご飯を食べられるところ。今の食べ物って添加物ばかり入ってるでしょ？遠野の食べ物は、特に野菜とかは目に見える形で作られているし、生産者に近くて安心だよね。

―― 遠野に魅力は無いですか・・・。率直な意見ありがとうございます。若い世代であればあるほど、その気持ちは大きいのかもしれませんね。例えば、遠野のまちなかでお気に入りのお店はありますか？

松田奥さん　民宿とおのの遠野屋「要」のお料理はとても美味しいと思いますよ。こだわりが素敵ですよね。発酵食品にこだわっているんですよ。

―― まだ、行ったことないんですが、とても人気ですよね。そういうこだわりを持った方がもっともっと増えていく遠野であればいいですよね。魅力あるまちなかのお店、店舗をもっと増やすには何が必要だと思いますか？

かつて柳田國男氏が遠野を訪れた際、まち場の活気ある様子をみて、馬千匹、人千人の賑わいと『遠野物語』に記しました。どごさ行ぐ？ まっちゃ行ぐ！ そんな掛け声が飛び交い賑わう中心市街地の活性化を目指すとともに、遠野駅舎の情報を発信します。

「N-S」（ノース）
住所/遠野市穀町１－17 2F ※事務所
ＨＰ/http://north-production.com/
メール/mastuda@north-production.com

松田さん　空き店舗の情報とリノベーションする支援が少ないと思う。まちなかには空き店舗がたくさんあるのに室内がそのままだったり、とてもすぐ使えるような内装になっていないのが残念。せめて水周りの整備だけでも補助してもらえれば、お店をやってみたい人にとってだいぶハードルが下がるんじゃないかな。都会に住んでいる人でも田舎に興味を持って田舎に住みたい人って結構いるからね。田舎のご飯は安心して食べられるから、それだけでも魅力の１つだと思うよ。平成30年に釜石自動車道（東北横断自動車道釜石秋田線）が貫通するまでの２～3年のうちに魅力的なまちなかにできるかが重要だと思う。駅前通りの歩行者天国化、駐車場の整備、ドミトリー（簡易宿泊施設）の整備、それらをまちなかに整備できれば、遠野の自然と相まって遠野のまちなかの魅力はかなりアップするんじゃないかな。

―― 遠野の食べ物は田舎だからこそ安心ということですね。「食べ物が安心」という視点、地元暮らしでは、なかなか忘れがちなことだと思います。駅前通りの歩行者天国化、駐車場の整備、ドミトリー（簡易宿泊施設）の整備、まちなかの課題を改めて感じました。１つづつクリアしながら、まちなかの魅力をアップさせていきたいですね。いろいろなアイディアこれからもお聞かせください。本日はありがとうございました。（取材：考える会事務局）

【松田　成人さん（まつだ　なるひと）】
綾織町出身。上京後、古着屋のバイヤーとしてアメリカと日本を約10年間行き来しながら、現在ニューヨーク・コレクションに参加している「N.hollywood」のブランド立ち上げに携わる。2004年8月独立。現在はブランド名「N-S」の事務所を遠野のまちなかに設け、県内の工場等で自社ブランドの洋服を生産し、全国展開している。
現在は、奥様の由紀さんと愛犬ハナコと暮らしており、一緒にまちなかを散歩するのが日課。

発行･編集／遠野駅舎の未来を考える会事務局（遠野市まちづくり再生担当）電話0198-62-2111